

2016年 おやじの山旅 北海道 道央・道南編

(2016年6月25日～7月3日)



羊蹄山山頂 1898m (6月27日 10時35分)



ニセコアンヌプリ山頂から羊蹄山を望む



札幌岳山頂 1293m (7月1日)

趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達がこれから定年を迎える。

定年後も、かけがえのない仲間達で山を楽しみたい。

(これから 10 年間を目安に活動を続けたい・・・、その始めの一步)

1. コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

2. 計画

山域・山名 北海道 道央・道南の山

期間 2016年6月25(土)～7月3日(日) 9日間

参加者と役割分担

No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	羊蹄山	登山 B	1955/5/10	61	A
2	藤田 勝啓	SL・装備	渡島駒ヶ岳 樽前山・風不死山	登山 S	1953/6/6	63	B
3	竹内 幹雄	気象・写真	オロフレ山	登山 1S	1951/10/26	64	O
4	津田 廣一	記録(正)	ニセコアンヌプリ	登山 1S	1953/6/20	63	O
5	津田 利栄子	(ゲスト)		-			
6	天野 広	会計	札幌岳	登山 B	1955/4/25	61	AB
7	上田 正博	記録(副)	紋別岳	-	1950/5/23	66	A
8	三矢 十三世	医務		ハイキング I	1938/3/25	78	A
9	町田 修	SL・地形・記録	積丹岳	登山 B	1955/9/5	61	B
10	町田 明美	(ゲスト)		-			
11	佐溝 直彦	アドバイザー		登山 1S	1939/3/4	77	A
12	玉澤さん	(ゲスト)		-			
13	鈴木さん	(ゲスト)		-			

スケジュール(概要)

No.	月日	山名	標高(m)	登山コース	行動時間(h)	担当	宿泊先
1	2016/6/25(土)	(移動・観光)				町田	なごみの宿「いい田」(積丹)
2	2016/6/26(日)	積丹岳	1255	婦美	5	町田	ニセコアンヌプリ YH
3	2016/6/27(月)	羊蹄山	1893	比羅夫	9	金子	ニセコアンヌプリ YH
4	2016/6/28(火)	ニセコアンヌプリ	1309	ニセコ山の家	3	津田	グリーンピア大沼
5	2016/6/29(水)	渡島駒ヶ岳	1131	赤井川	3	藤田	グリーンステイ洞爺湖
6	2016/6/30(木)	オロフレ山	1230	ホロフレ峠	3	竹内	ホテル鹿の湯
7	2016/7/01(金)	札幌岳	1293	冷水沢	5	天野	休暇村支笏湖
8	2016/7/02(土)	樽前山・風不死山	1041・1102	樽前山ヒュッテ	6	藤田	休暇村支笏湖
9	2016/7/03(日)	紋別岳	865	NTT 車道	3	上田	

行き：ジェットスター 中部国際空港 07：10～(GK181 便)～札幌新千歳空港 08：55

帰り：ジェットスター 札幌新千歳空港 19：20～(GK186 便)～中部国際空港 21：10



【6月25日 移動・ニッカ余市蒸留所（まっさん）見学 うにをたらふく食う】



朝一の飛行機へ乗り込み、出発だ！

札幌千歳空港は雨だった



まっさんの余市工場を見学し、ほぼ全員、ウイスキー・ワイン試飲でご満悦



宿に着き、一風呂浴びてると虹だ～

山盛りの“うに”が・・・

【6月26日 積丹岳】



出発の時から、小雨

止む事もなく、ますます本降りへ

【6月27日 羊蹄山】



出発は小雨. 予報ではいい筈だが? カップを脱ぎ、天気回復. 雲海の向こうに・・・



花を愛でつつ、頂上へ向かう

お鉢巡りも楽しみ、最高の登山

【6月28日 ニセコアンヌプリ】



出発前、ニセコYHでパチリ キタキツネに遭遇 整備された一級登山道を登る



ニセコ山頂、羊蹄山をバックに全員集合

4人を見送り

宿で寛ぐ頃、夕陽が・・・

【6月29日 渡島駒ヶ岳】

↓山頂パノラマ



砂礫の登山道を登る



ここにも花あり



ゲスト玉澤さんも交えて大宴会

【6月30日 オロフレ山】



雲海が見事



駐車場を出発



オロフレは新・花百名山



岩場も少し

【7月1日 札幌岳】



徐々に登山道が深くなり、熊を心配して進む（出会った人のスプレー）



一等三角点だ！

【7月2日 樽前山】



曇り空でスタートするも

樹林の登山道を抜けると風雨、視界不良 何も見えず



頂上もガスの中



下山し、ビジターセンターへ



休暇村の晚餐

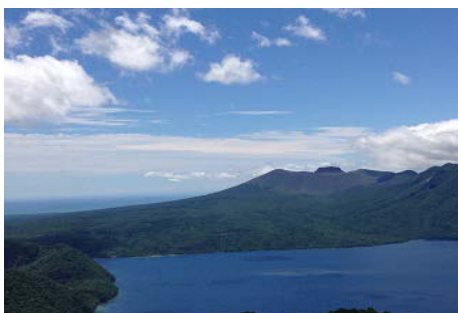
【7月3日 紋別岳→移動】



最終日のハイキング 元気に出発

おいしそうです

最後の急登か？



支笏湖と樽前山（頂上からの風景）



元気に下山



お疲れ（空港ロビー）

4. 行動記録

□6/26 (日) 雨

■ルート (積丹休憩所→積丹岳 1255m、ピストン)



参加メンバー

C L ; 町田修

S L ; 竹内幹雄

金子清

藤田勝啓

天野広

上田正博

三矢十三世

津田廣一

ゲスト ; 町田明美

ゲスト ; 津田利栄子

ゲスト ; 鈴木浩子

■行動

6 : 30 起床 いい田 (なごみの宿) 発 8 : 45 → 積丹休憩所 (登山口) 着 9 : 20

登山口発 9 : 50 → (5 合目 10 : 50) → フンベツの沢 1 本 11 : 05 → (7 合目 11 : 50) →

(8 合目 12 : 30) → ピリカ台付近 12 : 40 [ここまで] → 登山口 14 : 55

天気は回復基調という予報から、ゆっくり目の出発に決定。朝ご飯をしっかり頂く。美味い！宿を出る頃は雨も止んでいたが、登山口に着くと小雨状態。昨夜の「雨だったら中止で観光」という言葉と裏腹に、町田 C L に中止の気配は感じられない。回復基調という予報を信じ、カッパを着込んでの出発となる。北海道の最初の山から雨の洗礼だが、皆、元気だ。樹林帯の中を歩く為、さほど雨は気にならないが、暑い。ポレポレペースだが、話に花が咲いて姦しく登る。山菜取りに来たという若いアベックに追い抜かれるも気にしない。5合目を過ぎ、1h一寸歩いてフンベツ沢で1本。全員、元気そうだ。雨は止みそうにないが、気を取り直して歩き出す。徐々に道が険しくなり、へそ曲がりの木の枝が邪魔をする。「頭注意！」と、掛け声を放ちながら進むも、皆、“痛っ(いて)！”と、時々声を発している。7合目を過ぎたあたりで時間切れの様相となってきた。今日の宿(YH)に18時に到着しないと晩飯にありつけないとの事。頑張っ、ピリカ台付近まで到達したが、ここで断念となった(残り1h弱?)。選抜隊だけでも登るか?という意見も出たが、全員下山を決定。行動食を腹に入れ、ひたすら降りる。雨足も激しくなる中、15時前に登山口へ到達という厳しい北海道初山行となった。(18時ジャストにYH到着、うまいビールで乾杯、うまい料理に満足しての1日であった。) (記:津田)



□6/27（月）小雨のち曇り・晴れ

■ルート（比羅夫コース、半月湖野営場P→羊蹄山 1893m→避難小屋経由で下山）



参加メンバー
CL；金子清
SL；町田修
藤田勝啓
津田廣一
竹内幹雄
天野広
上田正博
三矢十三世
亀山誠
ゲスト；町田明美
ゲスト；津田利栄子
ゲスト；鈴木浩子

■行動

3：00 起床 ニセコアンヌプリ YH 発 4：10→登山口着（半月湖野営場 P）4：40、
登山口発 5：00→2 合目 5：55→6：05→4 合目 6：50→7：00→6 合目 7：55→8：05→
8 合目 9：10→9：20→羊蹄山山頂 10：35→11：00→避難小屋 12：15→12：30→
6 合目 13：45→13：55→4 合目 14：35→14：45→登山口 16：00 着

3時起床。各自朝食をとり早々にYHを出発する。30分程で半月湖野営場駐車場に着く。あいにくの小雨で雨具を着け登山口を出発する。往復10時間以上のロングコースでメンバーの体調を見ながらゆっくり歩く。熊よけの鈴をザックに付け、要所で笛を鳴らしながら高度を上げる。5合目を過ぎた頃には雨も上がり、振り返ると雲海に浮かぶニセコアンヌプリ、積丹岳、余別岳、狩場山などが見える。ときより吹く風が心地よく歩きやすい。9合目を過ぎると傾斜も緩くなり、高山植物の写真を撮りながら楽しく登る。火口壁に出ると大パノラマ。時計回りに山頂を目指す。途中、高山植物の群落が我々を楽しませてくれる。11時30分登頂。集合写真を撮り、山頂からの展望を楽しむ。下山は時計回りで羊蹄山避難小屋へ向かう。小屋へは真狩コースの途中からトラバースするので、ガスったら要注意。小屋で休憩をとり登りのルートを下る。長時間の登山でメンバーにも疲れが見えはじめる。慎重に下る。16：00 登山口着。登山口を後に温泉で今日の疲れを癒す。最高の日でした。皆さんに感謝！（記：金子）



山頂へ向う



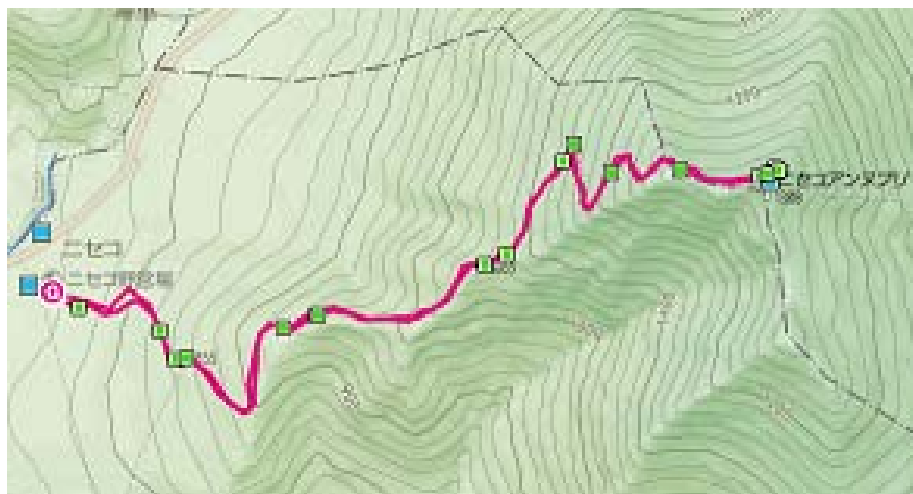
エゾノツガザクラ



羊蹄山 山頂にて

□6/28 (火) 晴れ

■ルート (五色温泉野営場P→ニセコアンヌプリ 1308m、ピストン)



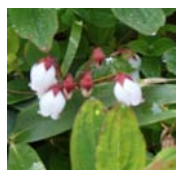
参加メンバー
CL ; 津田廣一
SL ; 藤田勝啓
金子清
竹内幹雄
天野広
上田正博
三矢十三世
町田修
亀山誠
ゲスト ; 町田明美
ゲスト ; 津田利栄子
ゲスト ; 鈴木浩子

■行動

6 : 30 起床 ニセコアンヌプリ YH 発 8 : 20 → 五色温泉野営場 P (登山口) 着 8 : 45
登山口 発 9 : 00 → ニセコアンヌプリ 山頂 10 : 30 ~ 10 : 50 → 登山口 12 : 05



ハクサンチドリ



アカモノ

美味しい朝食をしっかりと食べ、YHを後にする。登山口に着いてテキパキと準備。9時に元気に出発。今日の予定は、往復3hの楽勝ハイキング。ポレポレペースで登るが、天気も良く、次第に汗が噴き出してくる。風もあまりなく暑い。次第に話声が少なくなり、黙々と登る様になった頃、930mのケルン(中間点あたり)へ飛び出した。見晴らしも良く、多くの人が休憩している。「こんにちは、暑いですね!」「本当、暑いわ。こんなに暑いと分かってたら、来なかったんだけど・・・」地元のおばさんと二言、三言、言葉を交わし、喉の乾きを抑えたら、数分の立ち休憩後歩きだす。尾根上に出たので、周りの景色も楽しみつつ登る。時々、



イソツツジ

微風も吹く様になり、再び、話をしながらの登りとなる。高山植物も、チラホラと顔を出す。昨日登った羊蹄山は、全く顔を見せてくれない。1h半も歩き、頂上へ着くと同時に、ご褒美の様に羊蹄山の全容が目に飛び込んできた。皆と握手を交わす。今日、帰る方もいるので、頂上の360度のパノラマを楽しみ、早々と下山開始。途中、登って来る方と、挨拶を交わしながら、全員、足並みをそろえて12時頃に下山した。(記:津田)



ニセコ山頂から眺めた羊蹄山

□6/29 (水) 晴れ

■ルート (6合目登山口P→馬の背 902m、ピストン)



参加メンバー
CL ; 藤田勝啓
SL ; 津田廣一
金子清
竹内幹雄
天野広
上田正博
三矢十三世
ゲスト ; 津田利栄子

5 : 30 起床 グリーンピア大沼発 8 : 50→6合目登山口着 9 : 20
登山口発 9 : 30→馬の背 (山頂) 10 : 30~10 : 50→登山口 11 : 25

グリーンピア大沼から車2台に分乗し、6合目登山口まで入る。

赤井川コースは馬の背往復で予定2時間。

頂上の剣ヶ峰は火山活動により、馬の背から先は立ち入り禁止になっている。駐車場でストレッチ体操後出発。

天気が良く、日差しが強いので日焼け対策が必要だ。

砂礫と軽石の混じる登山道を歩き始めて間もなく、荒々しい剣ヶ峰の山容が見えてくる。

振り返れば大沼湖と小沼湖が見下ろせる。

歩き始めて1時間程で馬の背に着く。ここが一般的な頂上だ。

先行した登山者たちも平坦な広場で写真撮影や展望を楽しんでいる。

我々も一時の休憩後、下山開始。

研修登山の高校生と思われる団体と前後しながら駐車場へと下る。



剣ヶ峰



大沼湖



馬の背の標識



(記 : 藤田)

□6/30 (木) 快晴 オロフレ山



参加メンバー

CL：竹内幹雄、SL：天野広、金子清、津田廣一、佐溝直彦、藤田勝啓、上田正博、三矢十三世、ゲスト：玉澤憲明、ゲスト：津田利栄子

■ルート (オロフレ峠→オロフレ山 1231m、ピストン)

■行動 8：45 オロフレ峠登山口→9：45 コル (1000mケルン) →10：40 オロフレ岳頂上→11：00 下山開始 →11：30 コル (1000mケルン) →12：15 オロフレ峠登山口

朝7：30「グリーンステイ洞爺湖」のロッジを出発オロフレ山登山口に向かう。途中、展望の良い場所で車を停めて雲海の景色を眺める。洞爺湖から1時間程で登山口のあるオロフレ峠に到着。駐車場のスペースは大きくトイレもある。登山準備をして出発する。登山口の標高が930mと高いのでここからの景色は絶景だ。そして、ダケカンバの樹林の中を進む。シラネアオイの群落が見えると思っていたが時期が遅かったのか群落までは見えなかった。それでも登山道の脇には色んな花が咲いている。花の名前を知らない私は名前が出てこない。前を歩く津田さんの奥さん(利栄子さん)は花の名前を良くご存じで名前がすらすら出てくる。その花を津田さんがカメラに収める。羅漢岩を過ぎてしばらくすると1000mケルンに到着一本取る。眺望もよく広場になっているので休憩場所に良い。ここを過ぎると緩やかな登りが続き所々に花を見つけながら歩いて行く。やがて最後の急坂を登り詰めるとオロフレ山頂上に到着。360度の展望を楽しむ。20分程休憩して登ってきた道を下山する。オロフレ峠から定山溪温泉に行く前に「蟠溪温泉」の「湯人家」で汗を流し今日の宿「ホテル鹿の湯」に向かった。(記：竹内)



登山口を出発



羅漢岩を見る



シラネアオイ発見



1000mケルンで休憩



前方に、オロフレ山



「頂上」に到着!



慎重に下山する。



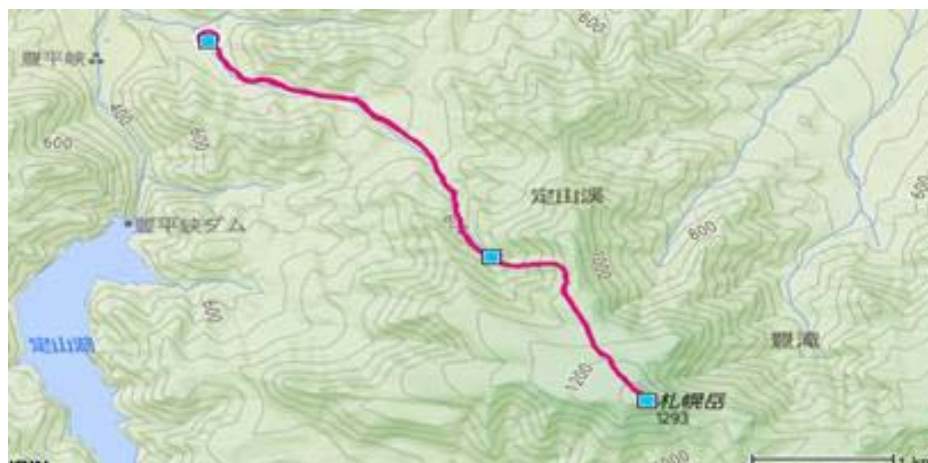
左がオロフレ山



湯人家で温泉入る

□7/01 (金) 晴れ

■ルート (冷水沢 登山口→札幌岳 1293m、ピストン)



参加メンバー
CL; 天野広
SL; 藤田勝啓
金子清
竹内幹雄
津田廣一
上田正博
三矢十三世
佐溝直彦
ゲスト; 津田利栄子
ゲスト; 玉澤憲明

■行動

6:30 起床 ホテル鹿の湯発 7:40→冷水沢 登山口P着 8:10 登山口発 8:36
→林道 9:30 (5) →冷水小屋 10:20 (10) →一本 11:28 (10) →札幌岳 12:12 (20)
→冷水小屋 13:45 (10) →登山口 15:10

登山口駐車場に着き準備後、入山届帳に記入する。下山後に下山届を記入する様になっている。どうやら北海道ではこのパターンが多いようだ。よく整備された登山道をゆっく



シシウド

り歩きはじめる。樹林の下を気持ちよく進む。シシウドがいっぱい咲いている。林道に出会い一本。今日のコースタイムは約6時間のため休憩はテキパキと行う。沢を5回程渡渉し冷水小屋へ到着。湧水で顔を洗いリフレッシュする。ここから

しばらく急登となり賑やかだった会

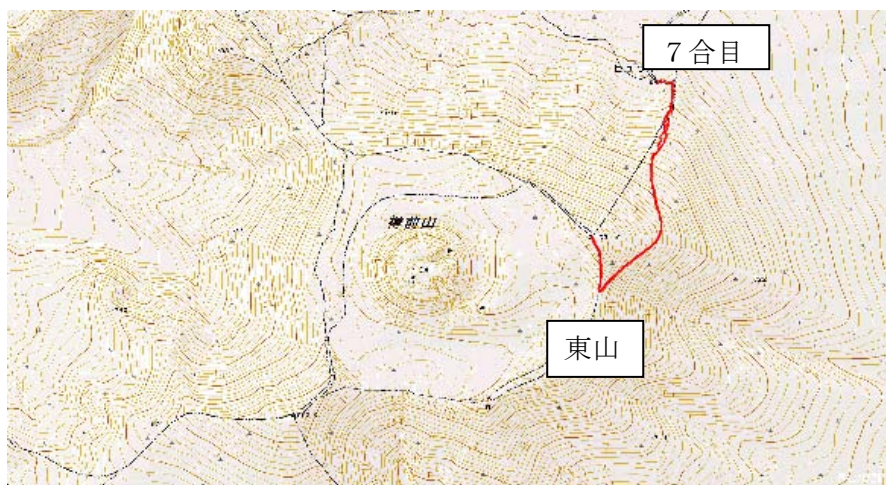
話も少なくなるが、クマ避けのための笛3重奏・鈴・ラジオは相変わらず賑やかだ。坂が緩やかになってきて見晴を期待したが、相変わらず樹林の中だ。一本とると下山者から「クマの気配があった」との情報があり、一層笛の音が大きくなった。山頂に到着すると360度パノラマが広がっている。天気は良いし、積丹岳・羊蹄山・恵庭岳などたくさんの山が遠望でき、最高の気分だ。長めの休憩と写真撮影のあと下山開始をする。休憩は冷水小屋での一回のみで、みなさん頑張って歩いたと思います。(記: 天野)



マイズルソウ

□7/2 (土) 雨

■ルート (7合目登山口P→樽前山 東山 1041m、ピストン)

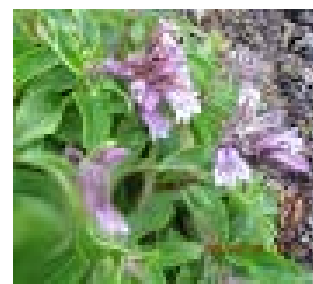


参加メンバー
CL ; 藤田勝啓
SL ; 津田廣一
金子清
竹内幹雄
天野広
上田正博
三矢十三世
ゲスト ; 津田利栄子

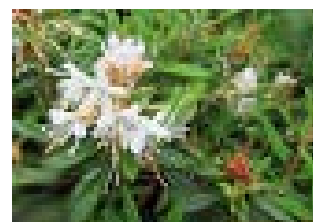
■行動

6 : 00 起床 支笏湖休暇村発 8 : 30→7合目登山口着 8 : 50
登山口発 9 : 05→樽前山 (山頂) 10 : 02~10 : 05→登山口 10 : 40

支笏湖休暇村から車2台に分乗し、7合目登山口まで入る。
当初予定は樽前山から風不死山を往復する6時間。
しかし、天気予報は雨時々雷。樽前山のお鉢巡りで雷に会ったら・・・
(あー、恐ろしや) という訳で樽前山ピストン約2時間に変更。
登山ポストで記帳して樹林の登山道に突入。
直ぐに森林限界を抜け、雨強くなりカッパを着用。
階段状に切られたコースで高度を上げていくと、山名にちなむ
タルマエソウが現れてくる。風雨に逆らっての行進であるが、
コース上に咲く、イソツツジ、マルバシモツケなどの花たちに
気持ちが安らいだ。じきに、外輪山に到達し「山頂まで0.3km」の
案内板。樽前山頂の東山では記念撮影も早々に下山開始。



タルマエソウ



イソツツジ

天候は散々であったが、午後からは支笏湖ビジターセンター
を見学して、支笏湖の自然の成り立ちを学ぶことが出来、有意義な
時間を過ごした。

(記 : 藤田)



山頂にて

□ 7/3 (日) 晴れ

■ ルート (NTTドコモ専用道P→紋別岳866m、ピストン)



参加メンバー
CL ; 上田正博
SL ; 金子清
竹内幹雄
天野広
藤田勝啓
三矢十三世
津田廣一
ゲスト ; 津田利栄子

■ 行動

6 : 30 起床 支笏湖国民休暇発 8 : 30 → NTT P (登山口) 着 8 : 40
登山口発 9 : 05 → 紋別岳山頂 10 : 45 ~ 11 : 15 → 登山口 12 : 30

バイキング朝食をお腹いっぱい食べ、国民休暇村を後にする。登山口に到着してテキパキと準備。9時5分に元気に出発。今日の予定は、往復3.5hのハイキングペースでNTTドコモ専用道登るが、天気も良く、支笏湖の全景が見えて、水の色が一部エメラルドグリーンに見え、とてもきれいでした。昨日雨の中登った樽前山の火口が台形状にはっきりと見え、昨日ガスって近くで見れなかった事が少し残念でした。その他、風不死岳や恵庭岳が一望でき雄大な景色を堪能できました。登山道は舗装されたNTTの道路が山頂まで続いて、登山には物足りない登りでしたので、途中から鉄塔の下の急な斜面を選択して、少しでも山登りの気分を味わう事が出来た。



山頂はNTTの電波塔が立ち並びいつもと雰囲気違った山頂でした。しかし360度のパノラマ展望は素晴らしく、北東に札幌市、南に苫小牧港が見え支笏湖の全景と出来た歴史を思い浮かべながらその美しさに魅了されました。下山は、NTTの道路をのんびりとおしゃべりをしながら下山した。下山後は昨日泊まった休暇村の温泉で、疲れを癒して千歳空港へと帰路に就いた。

(記 ; 上田)

5. 各担当所見と参加者感想

<金子C L所見&感想>

これから10年は続けたい・・・との思いでこの山旅を立ち上げた。

今回は、その始めの一步！半年前(1月)からメンバーが集まり、月1回のワイガヤ(打合せ)で意見を出し合い計画を作り上げた。

雑談をしながらの打合せは実に楽しい。つい飲み過ぎて、話し忘れたことも何度か・・・。

参加者はゲスト4名を含め13名(内女性4名)と、沢山の仲間が集まった。

登山初日の積丹岳はあいにく雨の中の登山となった。翌日の羊蹄山からは、概ね天候に恵まれ道南の山々の展望が楽しめた。

気心の知れた仲間や素敵なゲストの皆さんとのひと時は心が和む。

今回の山旅を一言で表すならば、デンソー山岳部の基本理念である

「未知への憧れを実現し、仲間と感動を共有する」この理念通りの山旅ができたと思う。

これからもより良い山旅を続けるために、次の事に心がけたい。

- ・計画は早い時期から時間をかけて
- ・プロセスを大切に
- ・登山は無理なく安全に
- ・日頃から心技体を磨きベストコンディションで参加

次回も皆さんと感動を共に。

<藤田S L感想>

1カ月間で23山を安全に登れました。そして、玉澤さん、鈴木さんと知り合い、岳友ならびに奥様方と楽しく一緒に登れた事に感謝します。

『アポイ岳、楽古岳、伏見岳、剣山、芽室岳、富良野岳、積丹岳、羊蹄山、ニセコ山、ヌプリ、渡島駒ヶ岳、オロフレ山、札幌岳、樽前山、紋別岳、夕張岳、ピンネシリ、南暑寒別、神居尻山、黄金山、恵庭岳、風不死岳、空沼岳、神威岳』

楽しかった1カ月を一生忘れないように山の名前を呪文のように覚えておこう。

ア・ラ・フ (カ) ・ ツ ・ メ ・ フ ・ シャ ・ ヨウ ・ ア ・ コ ・ オロ ・ サツ ・ タ ・ モ ・ ハリ ・
ピン ・ ショ ・ カ ・ コ ・ 庭 ・ 風 ・ 空 ・ サムイ

<町田 S L 所見&感想>

サブリーダー所見

S L の役割は言わずと知れた「前を良く見て、みんなをチャント目的地に導くこと、そして後ろに、さも目があるように後続メンバーの状態を掌握し、パーティーの行動を整えみんなが気持ち良く歩けるようにすること。プレ山行（大川入山）でみなさんの体力とかスピードとか癖を知っておいて良かったですね。

感想

みなさん夫婦参加に、ご同行ありがとうございました。

60 歳定年時（2015.09.05）以降の山登りを大きく三つに決めました。

- ① 65 歳までは（たぶん）現役として例会・春冬合宿に参加する。
- ② 上記以外は楽しい山登りをする。→個人山行&樫の木会山行。
- ③ 妻と山を登る。→ハイキングレベル。

今回の「おやじの山旅」は上記②にあたるのかな。

プラン「おやじの山旅」の狙いは、定年後の充実です。5 年後、10 年後を見据えた、素晴らしくタイムリーで、明確な目的を持ったプランですね。このプランには沢山の尾ひれが付いています。例えば「食」、あるいは「文化や歴史」、又は新しい人との「つながり」それから「高山植物」・・・等。しかし、最も大切にすべき本道は「自分の健康維持」と考えます（私もそんな年に成ったと云う事ですね）。これなくして冒頭の①②③は成立しません。

心と体の老化は経時変化で必然的に低下します。この低下 Tangent 角度を如何に小さくするか！ここを大きく左右するのが日々の生活の充実（仕事・アフター5・休日）で、その活性化ツールが「おやじの山旅」の神髄だと考えます。ならば長く楽しむために愉快的な仲間を大事にすること one for all, all for one。そして、あえて多少のストレスをオンさせ、全員が当事者意識でプランを盛り上げる事。

この様な事を考えながら、今回の北海道プランを振り返ると、限りなく 100 点に近い成績だと思います。もっと言えばプロセス段階で大方完成させた状態（コミュニケーションも含めて）だったと思います。ただ“限りなく”の減点項目は言わずと知れた、私の生活習慣病！楽しいお酒は、楽しい仲間と楽しい山登り。さらに楽しいお酒は、さらに愉快的な仲間と愉快的な山旅。もっと美味しいお酒は、・・・と、思っているのは私だけか？

<三矢さん 医務担当所見&感想>

誰も怪我せず、安全登山に終始できた事が一番。医務担当としての仕事もなく本当に良かった。

とにかく楽しい山行でした。全行程クリア出来るとは本当にラッキーでしたね。ありがとうございました。

<竹内さん 気象・写真担当所見&感想>

気象担当所見

大矢さんの事前情報もあり、概ね天気状況を予測して登山をする事が出来ました。

2日目の「積丹岳」は雨の中で苦戦しましたが、3日目以降は天候も良く、

8日目の「樽前山」は小雨の中を登り、「風不死山」をパスする計画となりました。

頂上はガスで視界が悪く景色は見えなかった。

全日程9日間と思えば良い天気だったと考えます。

写真担当所見

天候が雨の日は、写真をあまり撮らなかったが、逆に晴れた日は似たような写真を何枚も撮ってしまった。天候によって、その日の写真枚数にバラツキがあり雨の日は写真が少なかった。

景色を見ることに夢中になって、「写真に残す」ことをついつい忘れてしまい、「写真で記録を残す」ことの難しさを感じた。

感想

初日は雨に降られたが、その後は良い天候に恵まれ、楽しい山行となりました。計画した山をほぼ予定通り登ることができました。期間中、下山後は温泉、夜は「ビールで乾杯」と贅沢な山旅になりました。

同年配の集まりで9日間、「ワイワイ、ガヤガヤ」と楽しませて頂き良い思い出になりました。企画してくれた金子さん、メンバーの皆さんに感謝します。

また機会があれば参加したいと思っています。メンバーの皆さん有難うございました。

<天野さん 会計担当所見&感想>

会計担当所見

- ・メンバーの入れ替わりがあり、計算をするのに手間取った。

(留意点)

- ・交通費は概算距離数で配分（ガソリン・高速・レンタカー・車の消耗費）
- ・カード支払いを多くし、現金をの手持ちを少なくした

(反省点) 次回以降下記をしっかりと取る事が重要

- ・飲み代の記録（だれが何を何杯・料金）
- ・温泉など出費記録

感想

大変楽しい山旅を楽しむことが出来、発起人の金子さん、又、全てのメンバーに感謝します。ありがとうございました。今まで中部地方近辺の山しか登っていなかったのも、違った気候・景色・地形・花・樹木が楽しめました。

9日間という長い旅で良かったこと・印象に残った事

- ①たくさんの人と話ができて、親睦が深まった。
- ②服をどうするか悩み、途中で洗濯をするという選択肢を見つけた。
- ③交通手段でLLC・前泊のビジネスホテルなど、新しい知識を得た。
- ④宿泊ではユースホステルがお得でした。

<佐溝アドバイザー感想>

私が期待した事

- ① 好きな北海道の山を気心の知れた後輩達と行動して若い人から刺激を受ける事。

結果：3泊だけでしたが計画通り行動して交流を図れ満足でした。

山岳部仕込みの組織的計画的な高品質の計画と行動で安心でした。

- ② オロフレ山（お手軽な山）のシラネアオイの群落観賞。札幌岳に登る事。

結果：シラネアオイは空振りでしたが、峠での雲海や山頂での大眺望が良かった。

：札幌岳はしっかり歩けたが眺望が半分で札幌市街が望めなかったのがやや心残り。

- ③ 浦河在住の玉澤さんと飲みながらの会話や車中や山歩きを通しての交流を図る事。

結果：山旅・酒・等自分と共通する点多く楽しく交流を図れた（ウイスキーへのこだわり発見）

何とか喫煙は止める様に勧めたい（受動喫煙の防止）。

<上田記録担当感想>

定年を迎え体力が少し弱っていくのを感じている時、今回のおやじの会北海道山旅の計画を知り、自分の体力維持とこれからも山と楽しく付き合っていく機会と感じて参加を希望しました。

それに今回の参加者は、OBを中心に計画され、自分も体力作りをして、参加すればメンバーと一緒に楽しく登れそうだと考え、トレーニングをしながら参加する事が出来ました。

今回の計画は道南の山々を毎日無理なく登ることと、宿泊は宿泊まりと温泉を楽しみ、まさに定年後の山行として少し贅沢な山旅でした。

特に若いころ何度かニセコヘスキーに行き、アンヌプリ頂上から羊蹄山に向かって滑った時のニセコ富士の姿が目に残っていました。

今回の登山の一番の難所であり6時間をかけて山頂へたどり着き、お鉢巡りをして道南の山々を一望出来たその後5時間をかけて下山し、トータル11時間の登山に充足感と感動に浸る事が出来ました。

それ以外の山も毎日4～5時間の行程で、自分の体力を確認できた充実した山行が出来ました。また宿もそれぞれ特徴があり料理も北海道ならではの美味しい料理とお酒で大変満足した山行でした。

今年の成果をベースに今後のおやじの会の継続が提案され、皆さんの賛同が得られました。

私にとっても、これからの山行の目標が出来とても楽しい山行でした。

企画された実行委員、参加された皆さまありがとうございます。感謝します。

<津田記録担当感想>

昨年の冬合宿の折、「有志で北海道の山旅はどう？」との提案が金子からあった。「いいね！」と、藤田と、即賛同した事から始まった。飲み会半分の打合せを繰り返す毎に、参加者が増えたのは嬉しく感じた。その後、町田夫妻に刺激されたのか？三矢さんや金子からの誘いのせいかな？妻も「行くわ」と言ってくれた事も嬉しかった。9日間の山行は、あっという間に済み、楽しく充実していたと思います。大満足の山旅でした。みんな、みんな、ありがとう。

〔記録担当としては、山行終了後に、もう一つ山が来る。これは、少し辛いな？（笑）〕

<鈴木さん（ゲスト）感想>

空港より車の手配をいただき、運転を願い、ニッカ酒造見学、温泉、宿と巡る。日毎の登山の構成から、企画、準備と併せその都度方々がコーディネーターを担い、見えるところ見えないところでのサポートをいただく。そうして手作りの山旅がつづく。行程のその時々を感じる、みなさんの温かい思いと期待がオーガーとなってこの山旅を包んでいた。そんな大切な山旅にご一緒させていただけたこと、光栄に思う。あらためて心よりのお礼を申し上げたい。ありがとうございました。

<玉澤さん（ゲスト）感想>

この度のデンソー山岳会OBの山行に同行させていただき誠々感謝申し上げます。メンバーの皆様の素晴らしい人柄、このOB会の生き方に感動してしまいました。思い起せば、7月の日射しが強い雌阿寒岳。7・8合目のガレ場、登りながら偶然話しかけた方が、三矢さんでした。私も名古屋市民だったこと、山々のこと等を尋ねているうちに、親しみがわき、その後、月1・2度のTELでの近況報告、交流を続けているうちに、知己のごとくになりました。平成25年に、大型クルーズ船「サン・プリンセス」での釧路入港、限られた自由時間内で厚岸町「ヒオウギアヤメ」の原生花園散策が再開でした。翌年度、青山さんが隣町「新ひだか町」へ体験移住、来道中の三矢・青柳さんと共々招待され、会食、4人でのアポイ岳登山。佐溝さんの紹介、訪問、交流で深い人間関係が出来てきました。6月17日に、「夏のおやし旅」の先駆け藤田さんが訪ねてくれ、2人でアポイ岳、楽古岳、芽室岳を登り、5泊6日を共に致しました。岳人として、山岳技量の高さ、人間性の素晴らしさ、刎頸の友となれるかと思っています。その後、空港で待ち合わせし、佐溝さんとは1年ぶりの再会、メンバーへは洞爺湖での途中参加、その夜は私の誕生日を祝ってくれた交流会、楽しく、嬉しかったです。翌日のオロフレ山は四方の景観に恵まれ滅多にないことと思われま。札幌岳は冷水小屋からの急登が続きましたが、皆さまと楽しく登れました。支笏湖休暇村での別れは、去りがたいものがありました。昆布漁のアルバイトが有るので帰ってきました。アルバイトは9日間、働きましたが、その後の天候不順により、8月4日現在、まだ着手されていません。昨日、所用で、三石町へ出かけた帰り、道の駅で私と同じワンボックスカーの愛知県ナンバーの方が居て、何気なく話かけると、千種区在住で毎年一人で北海道に来て、山を登りながら涼しくなる迄廻っているとのことでした。奥様はアウトドアに興味がなく単独とのこと。69才の方で大卒後デンソーの下請け会社に勤務していた、堀田さんで、息子さんはデンソーの刈谷に勤め、研究室の関係で現在は東京勤務とのことでした。デンソーのスタッフは人柄の良い方が多いと話していました。山岳部メンバー・OBの方々が来道の節は、玉澤宅が1つのキーポイントとして下さい。この度はありがとうございました。

<町田明美さん（ゲスト）感想>

みなさん、またご一緒させてください。
みなさんの足を引っ張らないように、なんとか体を鍛えておきます。
少しでも高山植物や山の名前も勉強しときます。
ありがとうございました。

<津田利栄子さん（ゲスト）感想>

「北海道の山旅」、大変お世話になりました。
“一日一山、8山登る” 私についていけるのかしら？ 迷惑かけないかしら？
楽しみ半分、不安半分の出発でした。
定年おやじの方々のやさしさ、経験の豊かさ等、たくさん感じつつ、又、多くの花に癒され楽しい山旅となりました。ありがとうございました。
男性の健康寿命の平均は71歳とか？定年おやじの方々、いつまでも山を楽しんでもらいたいと思います。（主人をよろしくお願いします）

参考；会計報告

項目	備考	金額
宿泊費		583,210
温泉		55,960
食材	洞爺湖	22,673
ガソリン	2台分	22,800
レンタカー		98,874
消耗費	藤田車	14,250
高速	2台分	15,120
雑費	水・駐車場	1,710
合計		814,597

編集後記

7月3日に山旅を終えて、3～4ヶ月、10月末迄の報告書完成を目標とし、関係者の感想・所見等も9月末には提出してもらいながら、予想外の事情にて2か月送れの12月となってしまった事、申し訳ありません。私なりに、行動記録の写真以外にも参考になる様に思えるものを追加しました。こんな事もあったな～と、思いだすきっかけになればと思います。同時に、今後、同様の山行を計画される方の参考になればと、思っています。当初のメンバー以外に、亀山さんに飛び入り参加頂き、思い出深い2日間となった事、又、長期間にわたる緊急連絡先を快く引き受けてくれた松浦さんにも、感謝です。思い出深い楽しい山行を共にしてくれた仲間にも感謝し、第1回おやじの山旅報告を完了とします。